

# 稲・大豆作情報 (NO. 7)

## 1. 水稲作況情報田の生育概況(8月12日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m <sup>2</sup>	主稈 出葉数	葉色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.0株/m <sup>2</sup>	本年 平 年 平年比	89.9 93.9 (96)	345 360 (96)	13.5 13.2 (+0.3)	40.0 37.9 (+2.1)	今週は8/10以降低温多雨となった。草丈は「夢しずく」は平年よりやや低いが、その他は平年並み。茎数は「夢しずく」でやや少なく、「ヒヨクモチ」で多い。葉齢は「さがびより」でやや少ないが、他は平年よりやや多い。葉色は「さがびより」が平年よりやや淡い。
さがびより 小城市芦刈町	6/21 18.5株/m <sup>2</sup>	本年 平 年 平年比	79.9 82.0 (98)	448 452 (99)	13.2 13.7 (-0.5)	34.6 35.0 (-0.4)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	6/29 19.3株/m <sup>2</sup>	本年 平 年 平年比	72.3 66.9 (108)	677 636 (106)	13.9 13.6 (+0.3)	41.5 40.7 (+0.8)	

注1) 各品種 前作: 麦

注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる。

## <参考> 佐賀県農業試験研究センター 米づくり情報(抜粋)(8月13日調査)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m <sup>2</sup>	主稈 出葉数	葉色 SPAD	
夢しずく	6/18 19.6株/m <sup>2</sup>	本年 平 年 平年比	94.3 89.9 (105)	371 405 (92)	13.0 (止葉葉位) 13.7 (止葉葉位) (-0.7)	40.6 36.1 (+4.5)	【草丈】 「ヒヨクモチ」は平年並み。その他の品種はやや高い。 【茎数】 「夢しずく」は少ない。その他の品種は多い。 【葉齢】 「夢しずく」は止葉葉位に達しており、やや少ない。「ヒノヒカリ」はやや進んでいる。「さがびより」は遅れている。「ヒヨクモチ」はやや遅れている。 【葉色】 すべての品種で濃い。
ヒノヒカリ	6/18 22.2株/m <sup>2</sup>	本年 平 年 平年比	85.2 83.5 (102)	510 470 (109)	13.8 13.5 (+0.3)	40.5 36.0 (+4.5)	
さがびより	6/21 16.7株/m <sup>2</sup>	本年 平 年 平年比	81.0 78.3 (103)	554 475 (117)	12.9 13.7 (-0.8)	37.4 34.1 (+3.3)	
ヒヨクモチ	6/21 22.2株/m <sup>2</sup>	本年 平 年 平年比	73.6 72.8 (101)	684 640 (107)	13.6 14.0 (-0.4)	37.3 34.8 (+2.5)	

## 2. 水稲管理

**6月早植えの品種から出穂期～傾穂期となっている。生育は全品種 平年より早く推移している。生育ステージに応じ、水管理・穂肥・病害虫防除を適正に行う。**

### ○水管理

- ・「ヒヨクモチ」以外は幼穂形成始期～穂孕み期～出穂となっているため、強い水分ストレスを与えないよう間断灌水を励行し、湿潤（黒乾）状態を保つ。

※長雨時・長雨後も間断灌水が基本であるが、降雨が続いた後は落水期間をやや長めに取り、土壌へ酸素を与え、根の活性維持に努める。

### ○今週の管理

#### 夢しずく

- ・現在、6/9～10 植え 出穂揃い～傾穂期  
6/12～13 植え 出穂期～出穂揃い  
6/17 植え 8/14～15に出穂期を迎える見込み

#### ヒノヒカリ

- ・現在、穂孕み期となっている。出穂期は8/23～25の見込み。

幼穂形成始期の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
80cm以下	3.0以下	34以下	20～24日	1～2mm	3.0	18.8
	3.0～3.3	35～38	18～20日	3～5mm	3.0	18.8
	3.5～3.8	39～40	16～18日	5～15mm	2.0	12.5
	3.8以上	41以上	—	15～30mm	1.0以下	6.3以下
80cm以上	3.0～3.3	35～38	18～20日	3～5mm	2.0	12.5
	3.5～3.8	39～40	16～18日	5～15mm	1.5	9.4
	3.8以上	41以上	—	15～30mm	1.0以下	6.3以下

#### さがびより

- ・現在、幼穂 10mm 程度。穂肥施用適期。

#### さがびよりの生育ステージと穂肥の施用時期のイメージ

「さがびより」の生育ステージ	←--- 穂肥時期の目安 ---→											
出穂前日数	-25	-24	-23	-22	-21	-20	-19	-18	-17	-16	-15	出穂期
幼穂形成始期及び幼穂形成始期からの日数						4日後	6日後	1週間				
幼穂長		1mm	2mm	5mm	10mm	15mm	20mm					
標準的な草丈 (cm)	72～75		草丈の指標は、1cm/2日減じて使用する									
備考	適期											
注1) 「 」印は、幼穂形成始期を示す												

★新基準 H29～★ さがびより診断基準

幼穂形成始期 (幼穂長1mm) の草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 (kg/10a)	BB602 (kg/10a)
80cm以下	3.5以下	38以下	18～20日	5mm	2.5	15.6
	3.7	38～40	18日	10mm	2.0	12.5
	3.8	40～41	16日	15mm	1.0	6.3
	3.8以上	42以上	施 用 し な い			
80cm以上	3.8以下	39以下	16～18日	10～15mm	1.5	9.4
	3.8以上	40以上	施 用 し な い			

さがびより旧診断基準 (※中山間地域参考)

幼穂形成始期 (幼穂長1mm) の草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 (kg/10a)	BB602 (kg/10a)
75cm以下	2.5以下	33以下	18～20日	5mm	2.5	15.6
	3.0	33～37	18日	10mm	2.0	12.5
	3.5	37～38	16日	15mm	1.0	6.3
	3.8以上	39以上	施 用 し な い			
75～80cm	3.0以下	36以下	16～18日	10～15mm	1.5	9.4
	3.0以上	37以上	施 用 し な い			
80cm以上	施 用 し な い					

ヒヨクモチ

- ・ 間断灌水に移行し、幼穂形成期までに軽めの中干し（小さなヒビが入る程度）を行う。

○病害虫情報(発生および防除)

- ・ 今年のトビイロウンカは、3 飛来（5月11日、7月4日、7月9日）が確認されており、飛来量は平年並みで、飛来の中では7月9日がやや多い。
- ・ 農業技術防除センターより作成された最新発生予測図は下図のとおり（7/14 発信情報に変更なし）。  
なおこの発生予測図は気象をもとに随時更新され、変更される場合があるため、図の下に示すホームページで最新情報を定期的に確認し、防除の参考にする。
- ・ 管内のトビイロウンカ発生状況は、“小”発生レベルであるが、移植時期や肥培管理によってはより多く発生している可能性もある。今後も引き続き、それぞれで発生状況を確認し、適期適正防除に努める。
- ・ 現在の次回防除適期は、8/23～29 である。
- ・ 防除の際は、湛水するとともに、株元まで薬剤が十分かかるよう、ていねいに散布する。

防除効果が高い時期は、幼虫ふ化揃い期（各幼虫期の前半（図中★））である。



トビイロウンカの最新発生予測図

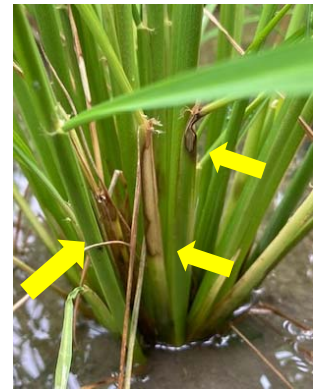
農業技術防除センターHP 参照：病害虫情報 <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

防除薬剤

薬 剤	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用回数
エクシード™フロアブル	2000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	3回以内
トレボン乳剤	1000~2000倍	60~150L/10a	収穫14日前まで	3回以内
エミリアフロアブル	1000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	2回以内
スタークル液剤10	1000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	3回以内

◆紋枯病

- 今年のように生育が良好で、過繁茂状態の圃場では、一気に進展する恐れがあるため、田回りを励行し、病斑が確認された場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展する時期（液剤、粉剤の場合は出穂 10～20 日前が目安）に防除を行う。



◆斑点米カメムシ類

- 8月の発生量は、やや多い予測である（農業技術防除センターの病虫害発生予察予報第4号）。
- 耕種的な防除として、畦畔除草は出穂 10 日前までに行う。  
出穂後畦畔除草を行うと水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、出穂 10 日前までに草刈りを済ませ、時期を逸した場合には除草しない。
- 山麓部や河川敷付近など、例年発生が多い圃場では田回りを励行し、防除を徹底する。

草刈りの時期（目安）	斑点米カメムシ類の防除時期
平坦部さがびより・・・8/20 頃まで	◎多発生：「穂揃い期」及び「乳熟期」の2回防除
ヒヨクモチ・・・・・・8/25 頃まで	◎少発生：「乳熟期（出穂の約15日後）」1回防除

### 3. 大豆管理

連続的な降雨により畝間に滞水がみられる地域が多い。速やかに圃場から退水させるように排水路を再整備し、排水を促す。引き続き、気象予報を注視し、排水対策・培土・病虫害対策など適正管理を行う。

○生育状況

- |             |        |
|-------------|--------|
| 6月下旬～7月初旬播種 | 本葉4～8葉 |
| 7月上中旬播種     | 本葉2～3葉 |
| 7月中旬以降      | 本葉1～2葉 |
- 降雨により生育停滞が見られる。



1 回目の培土時期の目安

○培土

- 培土は圃場環境が整った後、以下の目安を参考に実施する。

○実施時期の目安

- 1回目：本葉2～3枚の頃、子葉が隠れる程度におこなう。
  - 2回目：本葉4～5枚時に、初生葉（子葉の上の葉）まで隠れるようにおこなう。
- ※2 回目実施後は降雨対策に表面排水を促すため、排水口まで畝溝をつなげる。

培土の効果

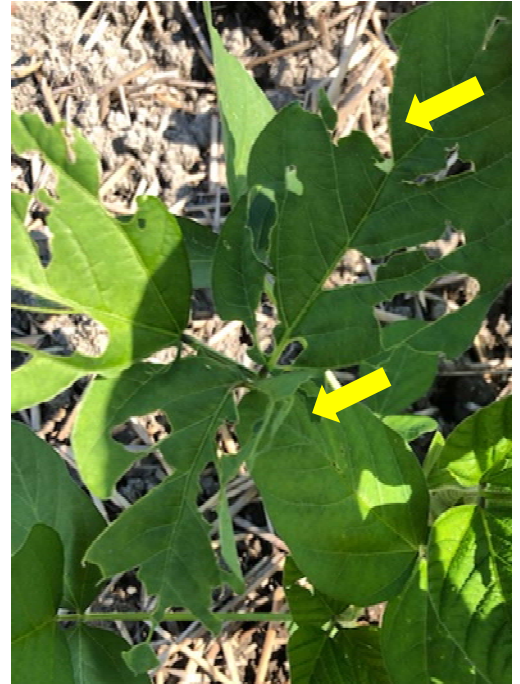
- ★不定根の発生促進
- ★土壌への酸素供給
- ★倒伏対策の強化
- ★雑草対策 など

## ○雑草対策

- ・イネ科雑草が多いところでは、ポルトフロアブル、ナブ乳剤等で防除する。
- ・カヤツリグサ科が多い場合は、大豆バサグラン等で防除する。
- ・アサガオ類やホオズキは、繁殖力が強く、放置すると次年度以降の発生量が多くなるため、圃場内はもとよりまくら地や畦で発生している場合は、必ず抜き取り圃場外へ持ち出すか薬剤散布での防除を徹底する。

## ○病害虫対策

- ・県内のハスモンヨトウは“多”発生となっているが、管内では降雨の影響により“平年よりやや少ない”発生の模様。
- ・また一部の地域でハスモンヨトウ食害による白変葉の他に新葉または本葉の一部に食害（写真）を受けている圃場が散見される。葉に大きな穴が開いた株が目立ち周辺に青虫がいる場合は、オオタバコガによる食害の可能性が高く、稀にシロイチモジヨトウが含まれる場合もある。  
防除は、オオタバコガが主流であればプレバソン、ペガサス、シロイチモジヨトウの場合はプレオが効果的。  
ノーモルト、トレボン感受性が低いため、使用を避ける。  
また防除にあたっては周辺作物へのドリフトに注意し、実施する。



### 令和3年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：佐賀)

佐城農業改良普及センター

